

## 平成28年 第 2回帯広市教育委員会会議録

1. 平成28年 2月8日月曜日 17時15分 ～ 19時  
帯広市教育委員会会議を帯広市役所 教育委員会室に招集する。

### 2. 本日の出席委員

教育委員長	田 中 厚 一
教育委員	門 屋 充 郎
教育委員	伊 藤 成 昭
教育委員	藤 澤 郁 美
教 育 長	八 鍬 祐 子

### 3. 本日の議事日程

- 日程第 1 会議録署名委員の指名について
- 日程第 2 報告第 2号 平成27年度帯広市教育研究実践表彰及び帯広市学校文化活動奨励賞について
- 日程第 3 その他(1) 平成27年度教育行政視察について  
その他(2) 今後の事業予定について  
その他(3) 寄附受納について  
その他
- 日程第 4 議案第 1号 平成27年度帯広市一般会計補正予算について【非公開】
- 日程第 5 議案第 2号 平成28年度帯広市一般会計予算について【非公開】
- 日程第 6 議案第 3号 平成28年度帯広市教育行政執行方針について【非公開】
- 日程第 7 議案第 4号 帯広市子ども学校応援地域基金条例制定について【非公開】
- 日程第 8 議案第 5号 おびひろ動物園ゆめ基金条例制定について【非公開】
- 日程第 9 議案第 7号 帯広市立高等学校教育職員等の給与、勤務時間その他勤務条件に関する条例の一部改正について【非公開】
- 日程第 10 報告第 3号 帯広市新総合体育館の整備運営に向けた取組みについて【非公開】
- 日程第 11 議案第 6号 教職員の処分内申について【秘密会】
- 日程第 12 報告第 4号 教職員の処分について【秘密会】

田中委員長

これから、平成28年第2回帯広市教育委員会会議を開会いたします。

出席委員は全員であります。

会議は成立しております。

ここで諸般の報告をいたします。

(福原課長 報告)

日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は、門屋委員及び伊藤委員を指名いたします。

日程第2、報告第2号、平成27年度帯広市教育研究実践表彰及び帯広市学校文化活動奨励賞についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

橋場 部長

報告第2号、平成27年度帯広市教育研究実践表彰及び帯広市学校文化活動奨励賞についてご説明させていただきます。本日配付いたしました議案書をご覧ください。はじめに帯広市教育研究実践表彰は、教育研究及び教育実践に優れた業績を上げた学校や団体、個人を表彰する制度としまして、昭和54年度に発足したものであり、平成26年度までの36年間で68団体、27個人を表彰しております。平成27年度も推薦をもとに選考しました結果、団体で、帯広市立稲田小学校以上、1団体に決定いたしました。稲田小学校は昨年度から、算数科を中心とした研究に取組み、児童の思考の流れマップを基盤にした導入の工夫や課題のイメージ化に焦点をあてた授業づくりを進めるとともに、筑波大学との連携を進めている初等教育研究会の会場校を積極的に引き受けるなど、論理的、数学的な思考力を伸ばす教育活動を教育実践発表会で広く帯広市内外に公開したものであります。また、学び合い、高め合う教師集団を目指し、初任者教諭のジョブシャドーの取組みや、若手教師の授業力を高めるために管理職による教師塾を開催するなど、学校組織の活性化に努めるとともに、エリアファミリーを活用した開かれた研修会を実施し、広く教師の指導力向上に対する取組みを進めており、本市の学校教育の充実に寄与したものでございます。次に、帯広市学校文化活動奨励賞につきましては、学校教育において優れた文化活動を行った団体や個人を表彰する制度として、平成2年度に発足したものであり、平成26年度までの25年間で60団体、57個人を表彰しております。平成27年度も選考しました結果、お手元の資料にございますように、第4回ご当地！絶品うまいもん甲子園において優勝しました、北海道帯広南商業高等学校クッキング部、第38回全国ジュニア英語スピーチ・コンテスト道ブロック大会において、最優秀賞を受賞しました帯広市立柏小学校6年、作田有太朗さん以上、1団体、1個人に決定いたしました。なお、表彰式につきましては、教育研究実践表彰は学校に出向いて表彰することとし、学校

文化活動奨励賞は個別に教育長室にお招きし、ねぎらいの言葉をかけながら表彰する形式で行っており、今後、日程の調整を行う予定でございます。報告は以上でございます。

田中委員長  
各委員  
田中委員長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になれば、質疑を終結し、本件を終了します。

日程第3、その他に入ります。

その他(1)平成27年度教育行政視察についてを議題といたします。

最初に八鍬教育長より報告をお願いします。

八鍬教育長

過日1月26日から28日の2泊3日の日程で、平成27年度の教育行政視察に行っていました。伊藤委員、藤澤委員と私、学校教育部から1名、スポーツ振興室から1名で、視察先は記載のとおり4つの自治体を訪問させていただきました。それぞれ記載しているとおりですけれども、青梅市、日野市、八王子市、武蔵村山市の各教育委員会の皆様には大変お世話になりました。視察の内容を簡単に説明させていただきます。武蔵村山市は小中一貫ということで、村山学園に行っていました。これは正式な学校の名前ではないのですけれども、村山学園の開校の経緯等のお話をいただきました。家庭環境の厳しい地域ということで、小中一貫教育の取り組みを進めていた背景が大きく違っている地域だと思いました。海外の方が多かったり、家庭の教育力が難しい地域でもあったと受け止めています。また、村山学園の管理職の体制も大変工夫がされていて、その地域の抱えている課題を大きく反映した組織が作られていると思いました。また、物理的にも小中学校の施設が繋がっている一貫校ですので、メリット、デメリットを実際肌で感じたところもでございます。青梅市の教育委員会では、青梅市の学校教育について、議会の決議の背景も含めてお話をいただきました。サタデースクールについては、文部科学省の事業を受けており、財政的な内容とか、長所や課題は何か、スタッフの現状などについてお聞きしました。次に日野市では、特別支援教育について、発達教育支援センターへ行ってまいりました。センター長は元校長先生ということもあり、子どもたちの小さい頃からの発達支援に大変力を入れているというお話もいただきました。特に縦割り行政の中で福祉と教育の融合、課題の洗い出し、様々な取り組みについて聞かせていただきました。特別支援教育の考え方は、法の改正とも連動しているわけですが、平成17年度から10年間の計画で推進してきているとのことでした。ただ、席の置き方や支えるスタッフのあり方については、一長一短があり帯広市との差は大きなものがあると感じたところです。帯広市の特別支援教育の取り組みについては、先進的な取り組み

をしていると改めて感じたところでもあります。次に八王子市の教育委員会につきましては、人口規模は相当違うわけですが、PFI方式を取入れている自治体の1つということで体育館を見てまいりました。メインアリーナ、サブアリーナの両アリーナについて、一般市民の方の利活用状況や実際に活動されているところを見せていただきました。PFI事業については、それなりの背景があり、一般財源の手当てが難しかったと伺っております。事業費は大変大きく約120億円ということで、規模についても大きな体育館でございました。VFMについても、13.8という報告を受けましたけれど、決して数値の大小だけにこだわることはないというお話がありました。帯広市もPFI方式で体育館の計画を進めさせていただいておりますので、実際の取組み活動を見せていただいて、いろいろと参考になったところがございます。今回4つの自治体を回りましたが、各自治体の抱えている学校教育やスポーツ振興の問題や課題は大きく違わないのではと思われました。それぞれの地域性や文化、家庭の教育力、あるいは経済環境などをそれぞれ勘案しながら、よりよい選択を積み重ね、各自治体が子どもたちのために、生涯学習の充実のために、一生懸命力を尽くしてがんばっていると思われました。短い期間ではありましたが、大変有意義な視察でございました。一緒に行かれた委員の皆さんはお疲れさまでした。簡単ですが以上報告とさせていただきます。

田中委員長  
伊藤 委員

伊藤委員からもお願いします。

この度は貴重な予算を使わせていただき行政視察をさせていただきました。今、教育長から概略のお話があり、重なる部分もありますが、感じたことを述べさせていただくと同時に、いくつか質問もありますので、帯広市の現状について教えていただければありがたいと思います。各教育行政機関においては、様々な課題を抱えながらも、知恵を出し合い、行政、あるいは現場の中で積極的に行動し、改善しようという意欲が見られました。帯広市もそれらの都市に決して負けていないとお見受けしました。学校教育につきましては、武蔵村山市における小中一貫教育ですが、小学校と中学校が極端に隣接していたのを廊下でつなげて一体化したということで、様々なメリット、デメリットを感じてまいりましたが、私からはメリットの部分をお話したいと思います。管理面においては、リーダーの考えたことがストレートに各先生方に伝わりやすい管理体制になっていたと思うのと、子ども同士の関係で、中学生が小学生に様々な指導を具体的にしている、地域の小学生と中学生の縦社会が確立されてきて、コミュニティが非常に深まっていることから、不登校が少なくなってきたメリットがあったようです。青梅市では、学力向上ということで、青梅市教委と学校側の連携プレーによって先

生の資質向上は勿論のこと、行政でできる部分として、サタデースクールを作り、学力が2極化された底辺の子どもたちをサポートしようという動きが民間の手で出来上がっていることは、帯広市としても学ぶことがあるのではないかと思います。日野市においては、発達支援教育センターを訪れまして、日野市のスタンダードというものを作り上げ、特別支援教育に関する考え方を全市に周知しているということです。その1つとして、日野スタンダードという本を作り、その中にはユニバーサルデザインの考え方、障害者権利条約における合理的配慮の部分を十分に考慮した技術指導まで記載したものを全職員に配り周知していることはよかったですと思います。ここはセンター方式なのでそこから発信するわけですが、帯広市の場合は各学校が母体になっていて、特別支援を受ける子どもにとっては非常に効果的ですし、保護者にとっても共通点を考えることなく、教育を受ける保障がされているところは帯広市の特徴だと思います。八王子では体育館を見せていただきました。ここのコンセプトは見る、見せることを前面に出して、全日本級の優秀な団体を呼び、様々なものを見せて市民にスポーツへの関心を喚起させるということでした。見る、見せるが前段でありますけれど、最近はずるスポーツの人口が多くなって、利用者が非常に増えてきていると言われておりました。帯広市もこれから総合体育館を造るわけですので、総合体育館の考えについてお聞きします。今回視察をした中で、メインアリーナでは各種スポーツのラインが交差していて、見づらい状況があると感じたところです。帯広市においてはどう考えているかお聞きかせいただければと思います。それから、帯広市は基本理念として、ふるさとの風土に学び、人がきらめき、人がつながるという崇高な理念のもと、様々な教育行政につきましては、ぶれることなく知・徳・体の調和を重視した教育を進めている面からも、自信を持って発信できる状況にあると思います。質問になりますけれど、国の中央教育審議会の答申や文部科学大臣から出された次世代の学校・地域創生プラン、あるいは障害者差別解消法の施行など、これからの公教育のあり方に係わっては様々な動きがあるのではないかと思います。帯広市として、こうしたことを見据えて、今後に向けた長期・中期的な考え方、方向性などがあれば、簡単で結構ですのでお示しいただければと思います。3日間ありがとうございました。

田中委員長

お答えについては藤澤委員の発言の後ということにさせていただきます。

藤澤 委員

3日間視察に行かせていただきありがとうございました。教育長、伊藤委員からも報告がありましたので、私からは印象に残ったことを報告させていただきたいと思います。まず、武蔵村山市の小中一貫校の村山学園では、全国一長い203mの廊下を見てまいりまし

た。隣接した小学校と中学校の廊下を繋いでこのような長さになったということで、この廊下により小学生と中学生が自由に校舎を歩き来できるようになり、放課後に中学生が小学生の勉強を教える光景が見られました。小学校と中学校の垣根が取り払われ、交流することにより、中学校入学という不安がなくなり、スムーズに移行できている感じを受けました。また、保健室で生徒が勉強している姿が見られ、養護教諭がワークシートの添削をしており、それは生徒に自信を付けさせてステップアップさせるものでしたが、大変興味深かったです。次に日野市、発達教育支援センターでは、福祉、教育、医療の3者協力して総合支援を行うため設置された施設で、開設してから2年弱の様々な機能を備えた施設でした。幼児、児童、生徒が面談する部屋のドアにはマジックミラーが取り付けられ、面談の様子が外側からも見られて保護者が安心できる工夫がされていると感じました。臨床心理士が非常勤ですが30名という多さにも驚きを感じました。特別支援教育を一般の先生にも理解してもらうための研究もされており、特別支援教育に対する意識改革を常に求められているように感じました。次に八王子市総合体育館は、規模が大きく大変立派な建物でした。同一フロアにメインアリーナとサブアリーナがあり、両方に観客席があって観覧しやすい配置の工夫がされていること、託児室などの設備もあり、ニーズにあった幅広い年齢層に使用しやすくなっていると感じました。駐車場スペースもかなりあるように見受けられましたが、全国規模の大会では足りなくなり、隣接の建物の駐車場を借りることもあるそうで、駐車場確保が大変のようでした。また、八王子市はホテルが少なく、大会参加者の宿泊が他地域に流れてしまう状況もお聞きしました。飲み物やお菓子、パン類の自動販売機はありましたが、売店、食堂はありませんでした。一般利用者はお弁当を持参するという地域性があるということでした。帯広とは立地条件や建設規模の違うところも多々ありますが、参考になる点は多いにありました。次に青梅市のサタデースクールの実施状況を教えてくださいました。サタデースクールの開設に至ったのは学力向上が目的とのことでした。児童・生徒がわからないところを理解させるのは、通常の授業では無理な場合がありますので、その子に合った学習をすることにより、学習定着を図るということでした。教える人材は元教員、市職員、学生などで、ボランティアではなく報酬を支払う形になっていました。主に退職校長によるコーディネーターが支援員の指導や出勤管理を行い、スムーズに実施されているようでした。会場は学校ではなく、地域のセンターなので校区に関係なく近隣会場に参加できることで、参加人数を増やす工夫もされていました。今後、帯広でもこのような取組みを実施する場合には大変参考になる内容でした。

以上のような感想ですけれど、学力の底上げをするにはどうすればいいかという目標だけではなく、全国の多くの地域の共通課題だと改めて思いました。簡単なことではないですが、取組みが必要な課題だと思います。しかし、学力を上げるだけではなく、青梅市ではお祭りの日は学校が休みで、子どもたちもお祭りに参加する話をお聞きし、郷土に根ざした生きる力も大切だと痛感いたしました。帯広の子どもたちにも郷土愛をいっぱい持ってもらいたいと思った次第でございます。3日間視察に行かせていただきありがとうございます。

田中委員長

ありがとうございます。伊藤委員からご質問が出ておりますが、その前に残られた門屋委員から何かご質問はございますか。

門屋 委員

丁寧な報告をしていただきありがとうございます。私が2年前に行ったときには、このような丁寧な報告ではなかったかもしれません。大変よくわかって参考になることが多々ありました。皆さんお疲れさまです。

田中委員長

私も1点だけ教えてほしいのですけれど、武蔵村山市の村山学園は、小中一貫ではあるが、義務教育ではないと書かれてあり、この文章だけでは理解できなかったのですけれど、つまり第四小学校と第二中学校は公立学校で、小中一貫校になったと同時に義務教育ではないというのは、組織的にどういう形なのか教えてください。それから、先ほど伊藤委員のご質問で、八王子総合体育館のメインアリーナのラインの問題、教育委員会全体のことで、中長期の今後のプラン、あるいは方向性についてあればお答えをお願いします。

橋場 部長

小中学校一貫校の村山学園につきましては、校長先生からご説明がありました。平成21年度にプレ開校という形になり、もちろん東京都には届出をしているということですが、ご質問のあった義務教育学校については、小・中学校のそれぞれの免許を全員が持っているということではなくて、第四小学校と第二中学校がたまたま東西に並んで建っていた関係で、施設を繋いで小中一貫校という名称で教育活動を行うということです。本来であれば管理職は校長先生2人、副校長先生2人ですが、中学席の校長が統括校長として1人いらして、副校長を便宜上3名置いて、中学席の副校長を1人、小学席の副校長を2人、4人を1-3に分けて学校を管理しているということです。制度上はコミュニティスクールなのですが、第四小、第二中にそれぞれ学校運営協議会をもって、制度上は2つの学校ということでございます。

田中委員長

わかりました。

敦賀 室長

総合体育館のラインの関係ですが、近年に整備している北海道や県レベルの地区の公式大会を頻繁に行う地域全体の総合体育館は、ラインを入れないで、マーキングと言って四つ角に印しを付

けるのが一般になってきております。八王子市の場合は、元々が総合体育館方式ではなくて、地区体育館がいくつかあって、市民の日常利用が多く、ラインは引きっぱなしが使いやすいということで、いくつかの競技があるため、赤や黄色、白の線が何本もあり、初めて来る方はわからないということがあります。帯広市で検討しているのは、全道大会も視野に入れておりますので、近年の事例に沿ってマーキングで考えております。

嶋崎 部長

3日間の視察お疲れさまでした。中長期的というお話でございませうけれど、昨年12月21日に中教審、1月25日に馳プランが国から出されました。そこの大きなテーマは地域と学校を結びつけてものを考えていかなければならないという要素があると思っております。そこでお話にございました小中一貫校、コミュニティスクールの話、幼児教育や特別支援、学校の適正規模・適正配置がそれぞれ絡み合っていて進んでいかなければならないと思っております。一朝一夕にできるものとは思ってございませうし、こういった課題につきましても、教育委員の皆様やたくさんのご意見等をいただきながら、丁寧に進めてまいりたいと考えてございませう。

田中委員長

ご報告ありがとうございます。

他になれば、本件を終了します。

その他(2)今後の事業予定についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

広瀬調整監

議案書39ページでございませう。3月の学校教育部の事業予定についてご説明いたします。小学校、中学校、高校の卒業式、卒業証書授与式がそれぞれ行われます。南商業高等学校の一般入学者選抜学力検査については、現在の出願変更中間状況は募集人員200名、推薦が124名、一般が101名、倍率1.1倍という状況でございませう。最終的には2月15日に確定し、学力検査ということになります。以上です。

葛西調整監

生涯学習部からは、39ページから40ページでは、文化課所管の公演を2件予定しております。次に図書館は3月3日に新図書館が丸10年を迎えるため、記念事業をいくつか予定しております。1つ目は10年間の軌跡について展示を3月1日から行います。2つ目は日本華道院十勝支部のいけばなを3月3日から展示をします。次に41ページ、翻訳家として活躍の金原瑞人氏の講演会を3月6日に予定してございませう。次に42ページ、百年記念館からは企画展の新着資料展として、27年度中に新たに収蔵した資料を3月5日から特別展示室で展示します。次に学芸員のしごと、平成27年度学芸活動報告会ということで、3月12日に予定してございませう。次に43ページのスポーツ振興室では、2016十勝大平原クロスカントリースキー大会を3月6日予定してございませう。その他は記

載のとおりでございます。

田中委員長  
各委員  
田中委員長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

その他（２）寄附受納についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

福原 課長

議案書は４４ページになります。企画総務課の寄附についてご報告いたします。清川小学校開校５０周年記念協賛会様から本年１月２８日に時計付き看板１枚、校名入りスリッパ１００足、５４万５、３６０円相当を清川小学校の教育環境の一層の充実を図るためとしてご寄附いただきました。２月１４日に記念式典を行う予定でございます。

北沢 館長

百年記念館からご報告いたします。帯広市在住の〇〇〇〇様より、戦時中に陸軍が移動用に使用していた医療用トランク１点を２月３日にご寄附いただきました。博物館資料として百年記念館で保存活用し、３月の新着資料展で展示する予定でございます。

高橋 園長

動物園からご報告いたします。札幌市、生活協同組合コープさっぽろ様より、平成２８年１月２９日、ホッキョクグマを通して、自然と地球環境を守ろうという趣旨で現金２００万円のご寄附をいただきました。コープさっぽろ様につきましては、平成２２年度から今回まで累計１、３００万円のご寄附をいただいております。引き続き平成２９年度まで年間２００万円のご支援をいただくことになっておりますので併せてご報告させていただきます。

田中委員長  
各委員  
田中委員長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

事務局からその他説明事項はありますか。

事務局  
田中委員長

ありません。

事務局からは特にないようですが、各委員から他にご意見、ご質問等があればお受けいたします。

各委員  
田中委員長

ありません。

別になければ、ここで会議の進め方についてお諮りいたします。

次の日程第４、日程第５、日程第７から日程第９の案件については、帯広市教育委員会会議規則第１６条第１項４号により、日程第６及び日程第１０の案件については、同第６号により非公開に、日程第１１及び日程第１２の案件については、同第２号により秘密会にしたいと存じます。

これにご異議ありませんか。

各委員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのとおり取扱いいたします。

これより会議を非公開といたします。

日程第4、議案第1号、平成27年度帯広市一般会計補正予算についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

嶋崎 部長

議案第1号、平成27年度帯広市一般会計補正予算についてご説明申し上げます。議案書は1ページから6ページでございます。本件は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、議会の議決を経るべき事件の議案について、教育委員会の意見を述べるものでございます。議案書1ページをご覧ください。教育費に係る3月補正予算額は195万3千円で、補正後の予算額は51億7,632万6千円となるものでございます。補正予算の詳細については事業別内訳表にてご説明いたします。5ページをご覧ください。財源の整理といたしまして、学校環境整備などの事業が新たに北海道市町村振興基金の貸付対象となりましたこと及び学校環境整備事業の一部が緊急防災・減災事業債の対象となりましたことから、地方債の限度額を変更するものでございます。次に、寄附金関連の補正についてご説明いたします。議案書6ページをご覧ください。寄附金とその利息について、寄附者のご意向に沿い基金積立とするものであります。教育振興基金積立金については65万1千円、ふるさと文化基金積立金については20万1千円、図書館図書整備基金積立金は110万1千円を計上するものであります。以上よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第1号、平成27年度帯広市一般会計補正予算については、原案のとおり了承することにご異議ありませんか。

異議なし。

ご異議なしと認め、議案第1号は了承されました。

日程第5、議案第2号、平成28年度帯広市一般会計予算についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

嶋崎 部長

議案第2号、平成28年度帯広市一般会計予算についてご説明申し上げます。議案書は7ページからでございます。本件は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、議会の議決を経るべき事件の議案について、教育委員会の意見を述べるものでございます。平成28年度の一般会計全体の予算につきましては、9ページ下の表にありますように、837億3,100万円となっております。次に、教育費関係の予算を順にご説明いたします。まず、学校教育部及び生涯学習部を合わせた教育費の平成28年度当

初予算総額であります。9 ページの下の表にありますとおり、53 億 2,426 万 1 千円となっております。一般会計に占める教育費の割合は 6.36%、前年度当初予算と比較いたしますと、1 億 6,555 万 5 千円の増となっております。継続・繰越分を含めた前年度との比較では 1 億 3,814 万 8 千円の増となっております。それでは、学校教育関係の予算からご説明させていただきます。議案書 8 ページをご覧ください。学校教育関係の教育費予算総額は、表の上段に記載しておりますが、33 億 7,032 万 4 千円であり、前年度と比べ 8,906 万 5 千円の増となっております。なお、継続・繰越分を含めた前年度との比較では、6,165 万 8 千円の増となっております。続きまして、平成 28 年度の学校教育における主な事業につきまして、議案書 11 ページ、A 3 版のポンチ絵になりますが、平成 28 年度学校教育予算概要によりご説明させていただきます。学校教育では、帯広市教育基本計画の基本理念を実現するため、学校教育の推進、教育環境の充実、高等学校教育の推進を柱として、予算編成を行ってきました。概要につきましては、帯広市教育基本計画に掲げる 2 つの基本目標と、基本目標を実現するための基盤づくりの体系に従って整理してございます。はじめに、上段の左側でございますが、次代を担う人づくりです。まず、知識・技能の習得では、学力検査の実施により、児童生徒の学力の実態を把握し、今後の指導に役立てていくほか、児童生徒に関わる教材教具及び教師用の教科書や指導書の整備を行ってまいります。また、南商業高校におきましては、ビジネス基礎講座実施などによるキャリア教育の推進やボランティア活動への参加など、社会性を養う活動に引き続き取り組んでまいります。次に、豊かな心の育成では、こころの教室相談員や家庭訪問相談員、スクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒の悩み等に対応してまいります。また、関係機関との連携を進めながら、いじめ・不登校・非行などの相談、指導を行い、未然防止や早期対応を図ってまいります。次に、健やかな体づくりにつきましては、新たに中学 3 年生を対象に、ピロリ菌検査を実施するほか、栄養教諭や食育指導専門員などによる、学校での食育指導を推進いたします。また、学校給食センターの機能を生かし、地元産食材を活用していくとともに、安全安心で魅力ある学校給食の提供に努めてまいります。人間を尊重し自然と共生する人づくりでは、引き続き、小・中学校への外国語指導講師の派遣、南商生の国際理解教育を推進いたします。次に右側をご覧くださいと思います。ともに学びきずなを育む地域づくり、ふるさとの理解の促進につきましては、郷土の自然や産業などに触れる体験学習を実施するほか、アイヌ民族についての理解を促す、教材や資料の作成を進めます。続きまして、下段の基本目標を実現するための基盤づくりであります。学校・

家庭・地域の連携につきましては、こども学校応援地域事業の推進を通じて、地域ぐるみでこどもを応援する仕組みづくりを進めるとともに、活動を支えるためのこども学校応援地域基金を創設するほか、地域住民の協力による学習支援のためのタブレットパソコンなどを整備いたします。教育を支える人材の育成では、教員による研究を支援し、その成果の普及を図る教育指導推進事業を実施するほか、研修などを通じて、教員のミドルリーダー育成に引き続き努めてまいります。次に、教育環境の充実につきましては、柏小学校の校舎トイレの改修工事などの学校トイレの洋式化をはじめ、東小学校の校舎温水ボイラーの改修工事、第四中学校のグラウンドの改修工事、南商業高校の屋内運動場の屋根・外壁改修工事を行います。また、中学校2年生の生徒用机・椅子の更新を行ってまいります。教育機会の確保では、知的学級を小学校1校新設いたしますとともに、支援を必要とする児童生徒のため、特別支援教育補助員を増員して配置するほか、引き続き生活介助員を配置いたします。また、清川地区のスクールバスを更新いたします。よりよい教育のためのしくみづくりといたしまして、引き続き中学校区を基本に幼保小中の協議の場としてエリアファミリー構想による幼保小中の連携を推進するとともに、小中学校の適正配置等について、基本的な方針の策定を行ってまいります。学校教育部関連の予算概要につきましては以上であります。

神田 部長

引き続きまして、生涯学習部に係ります平成28年度予算についてご説明いたします。議案書9ページにお戻りください。生涯学習部の予算総額は19億5,393万7千円で、前年度に比べ7,649万円の増となっております。この増額の主な要因は、2017冬季アジア大会の開催のほか、社会教育施設の環境整備に要するものなどです。それでは予算概要につきましては、A3の平成28年度生涯学習部予算概要によりご説明いたします。12ページをご覧ください。平成28年度当初予算における生涯学習部の予算編成に臨んだ姿勢としましては、生涯学習を通じて市民がまちづくりに参画する流れをつくるという基本姿勢のもと、予算編成の柱として、1. 社会教育施設の利用促進、2. 多様な学び、文化・スポーツ機会の提供、3. 学び、文化・スポーツをささえる市民活動の促進を念頭に、予算を組み立てたものでございます。予算全体の整理の仕方といたしましては、学校教育部と同様、教育基本計画に掲げる2つの基本目標と基本目標を実現するための基盤づくりの3つの体系に整理してございます。最初に資料の左上、基本目標の次代を担う人づくりでございまして、まず、知識・技能の習得では、コミュニティ講座や創造活動センター講座の開催など、引き続き学習機会を提供していくほか、動物園を中心とした帯広畜産大学との連携事業を継続する経

費などを計上いたしました。次に、豊かな心の育成では、市民が気軽に芸術・文化にふれる機会の提供として、札幌交響楽団特別演奏会の開催のほか、百年記念館における収蔵作品展の開催に要する経費などを計上いたしました。次に、健やかな体づくりでは、5回目となります、フードバレーとかちマラソン大会の開催など、子どもから高齢者まで、市民の日常的な体力づくりや健康づくりに取り組む活動を支援してまいります。次に、資料の右上、ともに学びきずなを育む地域づくりでございます。ふるさとの理解の促進では、ふるさとに関する市民の理解を促進するため、市民大学講座などの各種講座や百年記念館企画展、昭和のしごと・くらし展の開催、2年目となります、アイヌの伝統的生活空間（イオル）再生事業、さらに歴史的建造物等文化財保存活用事業の実施など、地域の歴史や文化を学び、理解を深める機会提供のための予算を計上いたしました。次に、きずなづくり・まちづくりであります。引き続き生涯学習団体への支援により市民の自主的な学習活動を促すほか、かねてより準備を進めてまいりました、2017冬季アジア大会の開催に要する経費などを計上しております。次に、基本目標を実現するための基盤づくりでございます。はじめに、学校・家庭・地域の連携ですが、図書館におけます食や健康に関する図書資料の整備のほか、百年記念館や動物園における親子を対象とした学習機会の提供などに引き続き取り組んでまいります。次に、教育を支える人材の育成ですが、地域の作家の発表の機会であります、地元在住者による美術展の開催や日本を代表するスピードスケート選手を講師に迎える、ほっとドリームプロジェクト事業に引き続き取り組むほか、右側の教育環境の充実では、動物展示施設の整備などを目的としました、おびひろ動物園ゆめ基金を創設するほか、社会教育施設の環境整備のほか、スポーツを通じた人づくり、地域づくりを進めるため、新たな総合体育館の整備運営に向け、具体的な作業を進めてまいります。さらに、よりよい教育のためのしくみづくりでは、共通のテーマに基づく展示や事業を効果的に提供する4館連携事業に引き続き取り組むための経費を計上いたしました。説明は以上であります。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

田中委員長  
門屋 委員

これから質疑に入ります。

スクールソーシャルワーカーの配置については、人数が増えるのでしょうか。

田中委員長

豊かな心の育成のところのスクールソーシャルワーカーの人数についてのご質問ですが、いかがでしょうか。

村松企画監

相談員・スクールソーシャルワーカーの人数の配置については、今年度と同様の人数の配置を確保できたということでございます。増員ということではなく、効果的な運用を検討、充実していきたい

と考えております。

田中委員長

私からもお聞きしたいと思います。学校教育部では、中学校3年生に対するピロリ菌検査の実施について、基盤づくりのところの子ども未来塾ICT機器、タブレットパソコン等の整備について、それから、生涯学習部では、歴史的建造物等文化材保存活用事業について、いずれも新規事業のところ、具体的に教えていただきたいと思っています。もう1点、全体的にトイレの改修を進める感じがいたしますが、教育委員会としては、トイレはすべて洋式化になっていくと考えてよろしいのか。先の話になると思いますが、最終的には温水化をめざしていくのか、お話いただければと思います。

村木 課長

中学校3年生に対するピロリ菌検査の実施については、胃がんの原因の95%以上がピロリ菌と言われております。早期に検査することにより、ピロリ菌の除菌を促すことにより、胃がんの予防ができるということで行いたいと考えております。検査自体は尿検査で行います。実施は健康推進課となりますが、学校教育課からも協力していきたいと考えております。以上でございます。

村松企画監

子ども未来塾のICT機器の整備については、国の事業として、中学校の放課後の学習支援の視点から、今年度新たに出された事業でございます。中学校2校分の放課後学習支援に手を挙げさせていただいて予算計上しているものです。主にタブレットパソコン、そこで活用する学習ソフト等をパソコンに入れ、放課後に子ども未来塾という名前ではないのですが、学校支援地域本部の中でボランティアを使った子どもたちへの学習支援を現在すべての中学校で行っておりまして、そこから2校にこの事業に参加していただき、検証を進めていきたいと考えてございます。以上でございます。

増子 課長

歴史的建造物等文化財保存活用事業でございますけれども、市内に点在する歴史的建造物をその歴史的な背景等を調査することにより、地域資源の価値を再認識し、調査によって若手建築士等の知識向上や街づくりの担い手の育成、街の賑わい等につなげていきたいと考えてございます。

敦賀 室長

社会教育施設のトイレの洋式化については、生涯学習関係の施設については昭和50年代のものから、明治北海道十勝オーバルのような最近整備されたものなど、いろいろあります。和式のトイレの比率が半分を超えるようなものもあります。温水洗浄便座になっているところもございます。比率の差が激しいので、できるだけ洋式の数を増やすことで取組み、どこの施設にも洋式のトイレがあることをめざしていきたいと思っています。特にウインタースポーツの施設ではトイレが寒いこともあり、何か温水洗浄便座を今回設置するものでございます。ただ、施設によっては、和服の場合、和式トイレがいいという話もあり、施設の性格によって配慮していき

いと考えております。

広瀬調整監

小中学校のトイレについては、洋式化率 50%を目標に整備を図っていくものでございます。平成 28 年度の予算で小学校は全体で 50%をクリアし、中学校は 40%位となります。学校間で洋式と和式の比率がばらばらですので、今後は各学校で 50%をめざしたいと考えてございます。温水洗浄便座につきましては、まずは洋式化の整備が終わってからですので、実施する、しないのお話はできない状況でございますので、ご理解いただきたいと思います。

藤澤 委員

田中委員長から先ほどピロリ菌検査の質問をされましたけれど、対象者は希望者のみと書いてありますけれど、どういう意図なのか教えてください。

村木 課長

ピロリ菌検査は学校保健法の事業ではございませんことから、やるやらないは保護者の判断に委ねたいということで、希望者のみという形にさせていただいております。

藤澤 委員

保護者の判断ということですね。検査で陽性になった場合の二次的なものは個人負担ということではよろしいですか。

村木 課長

はい。2次検査以降につきましては、保護者の負担ということで考えております。

伊藤 委員

学校教育部に 3 点、生涯学習部に 2 点質問させていただきます。学校給食の地元産食材活用の推進について予算化されていますけれど、具体的にはどのようなことをしていますか。それと、子ども未来塾 ICT 機器については、いよいよ帯広市の学校にもデジタル化が進められつつありますが、今回 2 校で検証し、検証結果によっては、将来的に授業の中で使えるような形で全児童生徒、あるいはいくつかの学校に配置されるのかどうかという見通しについて教えてください。ただ、検証しているうちに、新しい機材が出てくるかもしれませんけれど、現在のタブレットとしてお聞きします。もう 1 点は教育指導推進事業について、わからない部分があります。各学校で特徴的な教育活動を進めていて、多くの先生方がそれに係わっております。さらに教育指導そのものをレベルアップするためには、学校への研修費が非常に重要視されますし、増額されてはどうかと思いますが、この中に入っているのかどうかお聞きしたいと思います。それから、生涯学習部の教育を支える人材の育成の中に、地元在住者による美術展開催について、新規事業なのか、あるいは過去にやられているのであれば、年間で何回くらいなのか。また、美術の範疇についてお聞きしたいと思います。地元の芸術家をピックアップして、芸術に関する発信をしていくことは非常に重要だと思います。現在の在住者ばかりではなく、先達の方々の個展や美術展についてお考えがあるのかどうかお聞きします。図書資料の充実のところ、電子図書の捉え方については、この中に含まれ

ていて、電子図書をさらに蔵書していくということなのかどうかお聞きします。

山名副センター長

学校給食の地元産食材活用の推進については、学校給食では地元産食材をたくさん使うということで、地元産食材を使った加工品の開発や新メニューを試作する費用、加工業者との打ち合わせ費用として計上させていただいております。

村松企画監

まず、教育を支える人材の育成の部分で教育指導推進事業の予算につきましては、今、伊藤委員からお話があった部分も含めて様々な予算が入っておりますので、この金額になっております。例えば、この中に公開研究会の報償費なども含まれており、中央教育思潮に係るミドルリーダー育成の派遣旅費、その他に研修に係るお金が計上されております。子ども未来塾のICTの部分については、国の名称として、子ども未来塾と言っておりますけれども、放課後にボランティアや教師が学習支援するために、ICTが効果的であるということから、タブレットや大型テレビなどの様々なICTを活用して、学習支援をするということで、600万円の予算を計上しておりますけれども、現在、各都道府県に国から予算配分されている中で、北海道から手を上げている自治体に対して、実際に採用されるかどうかは今後になりますが、1校最大300万円ということで2校手を上げさせていただきました。実際に放課後の学習支援を行っている状況の確認をしながら、移動型のタブレットですから、授業中にも活用し、効果的な授業ができるかどうか、学校に検証してもらいながら、それによって、将来的に現在配置しているノートパソコンを含めて、どのような形が子どもたちの学習に役立つのかという視点から、更新時期にICTの整備を検討していきたいということです。タブレットのあり方自体をこの2校で検証していきたいと考えております。

増子 課長

地元在住者による美術展ですけれども、平成6年より2年に1度実施しているものでございます。十勝・帯広に在住で芸術活動をしている芸術家の展覧会で、ジャンルにつきましては、絵画、書道、写真、造形等、毎回テーマを決めて作品を作っていただいております。また、実行委員会が芸術家の中から選考し、委嘱をして開催しております。

本江 館長

予算計上をさせていただいております図書資料の充実につきましては、紙ベースの資料を想定しております。電子書籍につきましては、まだ図書館向けのコンテンツが非常に少ないということ、扱っている業者によって、その条件が様々で、回数制限であったり、ダウンロード方式であったり、非常にばらつきが大きいこと。購入した場合に会社が倒産したときの保障についても、はっきりしていない部分など不透明な部分が多く、今は情報収集に努めている

段階でございます。

伊藤 委員  
田中委員長

わかりました。

他になれば、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第2号、平成28年度一般会計予算については、原案のとおり了承することにご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、議案第2号は了承されました。

日程第6、議案第3号、平成28年度帯広市教育行政執行方針についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

嶋崎 部長

議案第3号、平成28年度帯広市教育行政執行方針についてご説明いたします。議案書19ページをお開きいただきたいと思います。本案は帯広市の教育基本計画の着実な推進に向けて、平成28年度における教育行政の執行の基本的な考え方や取り組みの方向性などを示すものでございます。まず、20ページの目次をご覧ください。

1. 基本的な考え方、2. 取り組みの方向性、3. 主な取り組みの3つで構成されております。次に21ページをご覧ください。基本的な考え方では、子どもや大人を取り巻く教育の現状認識について述べた上で、その認識を踏まえた考え方、帯広市教育基本計画の基本理念の実現に努め、帯広らしい教育を進めていくことを記述してございます。22ページ、2. 取り組みの方向性では、教育基本計画の2つの基本目標と基本目標を実現するための基盤づくりに向けた平成28年度の取り組みの方向性を記述してございます。はじめに次代を担う人づくりでは、知・徳・体の調和が取れ、人間を尊重し、自然と共生する人づくりを進める方向性を述べた上で、おびひろっ子を育む9年教育プログラムや帯広版アクティブ・ラーニングなどについて記述をさせていただいております。次に、ともに学びきずなを育む地域づくりでは、人と人がつながり、ともに役割を果たしていく協働の地域づくりをすすめる方向性を述べた上で、十勝・帯広の自然や歴史、文化の地域資源を生かした教育や交流などについて書かせていただいております。次に23ページ、教育目標を実現するための基盤づくりでは、学校・家庭・地域の連携促進や教育環境の充実などに取り組み、帯広市の教育を支える基盤を一層強固なものにしていくという方向性を述べた上で、こども学校応援地域基金やおびひろ動物園ゆめ基金の創設について記述させていただいております。23ページ下段以降の3. 主な取り組みにおきましては、帯広市教育基本計画の体系に従い、平成28年度の主要事業などについて記述しております。説明は以上でございます。よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

田中委員長  
伊藤 委員

これから質疑に入ります。

24ページ、豊かな心の育成のところ、道徳が完全に教科になっていくということから、現場では今からそれに向けての考え方、取組み、指導方、評価等について検討されていると思いますけれど、移行期も含めて近々ということですので、各学校で取組まれて、充実させていきたいと受け取っていいのでしょうか。

橋場 部長

今、ご指摘いただきましたとおり、道徳教育の充実については、大きく取り上げさせていただきまして、この後、指導の重点や校長会議等で具体的にこのことについては触れていきたいと考えております。

伊藤 委員  
田中委員長

ありがとうございます。

私も1点だけ確認させていただきたいのですが、22ページの取組みの方向性で、文言としては初めて出てきていると思いますが、誤解だったら訂正してください。帯広版アクティブ・ラーニングについて、今までもやってきている主体的・協働的に学ぶことを、整理整頓して積極的にやるということだと思いますけれど、次年度以降、積極的に取り組むという趣旨でよろしいのでしょうか。

橋場 部長

アクティブ・ラーニングは、どのように学ぶかということで、授業の方法論や教育の方法論に使われる言葉だと思いますけれど、特に帯広版と付いているのは、私どもとしては、学びの時間や空間、人を開くということで、幼・保、小・中、生涯学習とも連携しながら体験活動や考える活動、学校教育だけではなく大事にしていきたいということで、帯広版アクティブ・ラーニングという言葉をつけさせていただいたところでもあります。

田中委員長

恐らくこれが1つの帯広の教育の特徴を指し示していく大きな意味合いを持つだろうと思いますのでよろしく申し上げます。

嶋崎 部長

帯広版アクティブ・ラーニングにつきましては、地方創生の総合戦略の1つのプランとして、この名称で事業を計上させていただいています。そういうことから今回、教育行政執行方針につきましても、ここに入れて取り組むという意図を示すところもございますので、よろしく申し上げます。

田中委員長

他になければ、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第3号、平成28年度帯広市教育行政執行方針については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、議案第3号は決定されました。

日程第7、議案第4号、帯広市こども学校応援地域基金条例制定についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

橋場 部長

議案第4号、帯広市こども学校応援地域基金条例の制定についてご説明させていただきます。議案書は31、32ページでございます。本案は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、議会の議決を経るべき事件の議案について、教育委員会の意見を述べるものであります。本市ではこれまでも様々な地域で、子どもの健全育成に関わる取組みが進められているところがございますが、こうした既存の取組みに携わっていただいているボランティア団体等の連携を強化することで、それぞれの地域で、これまで以上に地域総ぐるみで子どもを育むという機運を高めていこうとする取組みについて、長期的な視野で財政的支援をするための基金を設置するものでございます。よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

田中委員長  
伊藤 委員

これから質疑に入ります。

わからないので教えてください。こういった条例ができて、第7条では、基金の管理に関して必要な事項は、市長が別に定めるとありますが、管理、運営を含めて、市長が組織等を定めるという捉え方でいいのでしょうか。

嶋崎 部長

基金条例ということで、地方自治法につきましては、財産のおさえ方として、現金、物品、基金という形で整理する必要があります。その中で整理の仕方として、ここの管理というのは、あくまでも物理的なもののみを指します。運営については、我々の予算執行の範囲内で整理いたしますので、ご理解いただきたいと思っております。

伊藤 委員  
田中委員長

わかりました。

他になれば、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第4号、帯広市こども学校応援地域基金条例制定については、原案のとおり了承することにご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、議案第4号は了承されました。

日程第8、議案第5号、おびひろ動物園ゆめ基金条例制定についてを議題といたします。

神田 部長

議案第5号、おびひろ動物園ゆめ基金条例の制定についてご説明申し上げます。議案書は33、34ページになります。本案は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、議会の議決を経るべき事件の議案について、教育委員会の意見を述べるものであります。おびひろ動物園につきましては、半世紀以上にわたって親から子、子から孫へと親しまれてきた歴史を持ってございます。これからも多くの市民に愛され、子どもたちに夢や希望を与えるためには、動物展示施設等の整備及び動物の購入が必要であ

り、これらの費用に充てるため、おびひろ動物園ゆめ基金を設置するものであります。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

田中委員長  
各 委 員  
田中委員長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第5号、おびひろ動物園ゆめ基金条例制定については、原案のとおり了承することにご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、議案第5号は了承されました。

日程第9、議案第7号、帯広市立高等学校教育職員等の給与、勤務時間その他勤務条件に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

嶋崎 部長

議案第7号、帯広市立高等学校教育職員等の給与、勤務時間その他勤務条件に関する条例の一部改正についてご説明申し上げます。本日お手元に配付した議案書をご覧いただきたいと思っております。本件は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、議会の議決を経るべき事件の議案について、教育委員会の意見を述べるものであります。条例改正の概要としましては、地方公務員法を改正する法律の施行に伴い、条文の整理が必要となったものでございます。以上よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

これから質疑に入ります。

田中委員長  
各 委 員  
田中委員長

ありません。

別になければ、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第7号、帯広市立高等学校教育職員等の給与、勤務時間その他勤務条件に関する条例の一部改正については、原案のとおり了承することにご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、議案第7号は了承されました。

日程第10、報告第3号、帯広市新総合体育館の整備運営に向けた取組みについてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

敦賀 室長

報告第3号、帯広市新総合体育館の整備運営に向けた取組みについてご説明させていただきます。資料は本日配付させていただいております。新総合体育館につきましては、今年度PFIの手続きにより進めてきており、昨年9月に実施方針案を公表した後、11月には業務要求水準書の概要につきまして、本会議に報告させていた

できました。その後、現体育館周辺の住民・事業所やスポーツ競技団体等に説明し、意見交換をしたほか、PFI手続きの一環として、事業者との間で、個別対話という形で意見交換を行ってまいりました。さらに国内の先行事例の資料を収集分析するとともに、体育館整備に関する研究・協議団体との情報交換も行ってまいりました。これら意見交換、情報交換の結果を踏まえ、実施方針・業務要求水準書原案段階でお示しした施設の配置・ゾーニングとメインアリーナとサブアリーナのあり方について、新たな方向性を持つこととし、施設のコンパクト化に取り組むことが適切と判断いたしました。施設の配置につきましては、従前は、資料の左下、左側の写真にありますように、現啓北公園の場所にメインアリーナやサブアリーナ等、施設の主体となる部分を整備した後、現総合体育館を解体・撤去し、その後、個人利用の施設が中心になりますが、付帯施設を整備するほか、外構工事を行うこととし、また、廃止となる啓北公園の代替として、街区公園を整備するという内容でございましたが、これを右側の写真のように、新体育館は啓北公園の場所に一体的に整備することとし、工期の短縮や駐車場等外構部分に余裕をもたせることとしたものでございます。特に北海道とは啓北公園の代替のあり方について、幾度となく協議を重ねてきた結果、新総合体育館の敷地全体を十勝川水系河川緑地につながる緑地として位置付けることにより、独立した公園を整備せず、敷地全体を緑化することで整理がついたものでございます。こういったことにより、工期の短縮が図られるほか、公園整備費の縮減につながるものと考えております。また、メインアリーナとサブアリーナを別個に整備することとしておりましたが、資料右側にある図のとおり、一体的に整備することで、間仕切りを活用して、バスケットボールコートであれば、3コート対1コートのほか、2コートずつとしたり、4コートを一体的にしたりすることが可能となる形としたいと考えております。間仕切りは、従来のネットのほか、シート式のものも開発されており、そういったネットを活用することにより、隣同士で別々の競技を同時進行することも可能と考えております。こういったアリーナのあり方は、国内の体育館の研究・競技団体との情報交換の中で示されたもので、市内の体育団体からも意見を伺いましたが、多様な使い方が可能であると同時に、メイン・サブ両方のアリーナを使用する大規模な大会時の運営についても効果があると、好意的に受け止められております。また、メイン、サブと別々に整備するよりも、アリーナの総面積を圧縮できるほか、廊下や器具庫の面積も減り、人や用具・器具の動線が短縮でき、利用者の利便性を広げるとともに、経費の圧縮にもつながるものと考えております。これらの変更等に伴い、先に公表した実施方針の一部変更や現在策定中の業務要求水準

書の修正作業などが発生することとなり、先にお示ししたスケジュールにも若干の変更が出てくることとなります。当初、2月にお示しするとさせていただいていた実施方針、業務要求水準書の最終案につきましては、現時点では整理中ということで、原案として策定し、3月には事業審査委員会や事業者等から意見をいただき、5月までに最終案として整理してまいりたいと考えております。このため、募集開始は当初予定の4月から5月にずれ込むこととなりますが、応募締切りを当初の8月から9月にずらし、10月に選定作業を集中させることにより、来年3月の契約予定の時期への影響はないものと考えております。また、裏面に現在整理中の実施方針、業務要求水準書の目次を示させていただいております。参考としていただければと思います。説明は以上でございます。

田中委員長  
伊藤 委員

これから質疑に入ります。

感想ですけれど、当初の計画を大幅に考え直し、コンパクト化という言葉が出て、それに相応しい設計を示されたわけですが、工期の短縮、経費削減、効率的・効果的な運営ができそうだと思います。私個人としても高齢者でありますので、会場であちこち動かないで見たり、スポーツを楽しんだりできそうだと思います。見学しに行っても、観察しながら楽しめると思いました。ご面倒とは思いますが、さらに関係者と知恵を出し合いながら、先ほど教育行政執行方針の中にも出てまいりましたが、帯広版総合体育館として、ぜひ自信を持って発信できるような体育館づくりをしていただきたいと思います。感想です。

田中委員長  
門屋 委員

おっしゃるとおりだと思います。

敷地内全体の緑化を図るということ、河川敷の中に入れていただいたことにより、これが実現する可能性が出てきたわけですね。できる限り敷地内の緑化を考えていただき、駐車場に木が何もないということがないように、希望として、ぜひ景観も考えていただければと思います。

田中委員長

これもおっしゃるとおりで、よろしくお願ひしたいと思ひます。他になければ、質疑を終結し、本件を終了します。これより会議を秘密会といたします。

(以下、非公開)

田中委員長

以上で本日の日程はすべて終わりました。  
これを持ちまして、平成28年第2回帯広市教育委員会会議を閉会いたします。